

第 10 回京都老人福祉学会

第 9 回京都老人福祉学会実行委員会

〒600-8127 京都府京都市下京区西木屋町通上の口上る梅湊町 83-1
ひと・まち交流館 京都 4階

助成事業の概要

府老協、市老協両会員施設の職員が、介護保険制度の動向や高齢者福祉の基本的な理念、ケアのあるべき姿などを学ぶとともに、他施設の職員と交流し、お互いの取り組みを共有することなどにより、提供するサービスの質や職員の資質向上などを目的として、第 10 回目の学会を平成 24 年 2 月 28 日、29 日の 2 日間開催致しました。

今回は特に両協議会の会員施設の職員だけでなく、一般府民や学生などの意見も聞き、時代に即したニーズを開拓していくことを掲げ、より開かれた学会を目指しました。1 日目は外部講師を招いての基調講演と記念講演を、2 日目は職員や学生が日頃の成果や問題点を発表する分科会を行いました。

事業の成果

今回は記念すべき第 10 回大会となり、「地域包括ケアの推進、わたしたちの果たす役割とは」をテーマに、より広く開かれた学会を目指して開催いたしました。京都府内では、介護、予防、医療、生活、支援、住まい等が一体的に切れ目なく提供される京都式地域包括ケアによる多くの事業が展開・推進されているところであり、1 日目の基調講演①にて京都地域包括ケア推進機構 理事長 井端 泰彦氏に「京都式地域包括ケアの実現をめざして」と題したご講演をいただきました。基調講演②では全国社会福祉施設経営者協議会 東日本大震災現地復興対策本部長 佐々木 薫氏によ

る「東日本大震災における地域連携と高齢者支援について」と題したご講演をいただきました。

また、記念講演として元「小惑星探査機はやぶさ」プロジェクトマネジャー 川口淳一郎教授による「はやぶさ式リーダー論」と題したご講演もいただきました。

学会 2 日目は 10 テーマで分科会が開かれ、施設長や職員、福祉を学ぶ学生らが順次、日頃の取り組みや成果、問題点などについて発表しました。参加者はそれぞれの知識を高め、先進的な取り組みを行っている他施設の状況を知り、互いに交流することなどにより、それぞれの専門性を高めるとともに、日常業務を振り返り、改善点や新たな課題を見出し、各施設に持ち帰り、翌日からの勤務に活かし、実践していく決意を新たにしました。また、回を重ねるごとに、発表する職員の情報発信能力等の向上や、意識改革が両協議会のレベルアップにつながってきたように感じられました。分科会での取り組みを通して、福祉系の大学、専門学校や関係団体、一般参加者との交流や相互理解が深まることにより連携が強化され、地域包括ケア体制の推進に向けた基盤づくりができたと思います。

今回は特に、実際に現地支援にあたった施設の施設長による報告等、参加者とディスカッション等も交え、昨年東日本大震災での未曾有の大災害を踏まえ、地域連携、危機管理のあり方などについて高齢者福祉施設にとっての果たすべき使命について、改めて考えさせられる機会となりました。

■ 今後の展開

京都府が推進している「京都式地域包括ケア」の一端を担う老人福祉の分野で、まずは現場で働く者の意識改革が必要ですが、今まさにどの方向に向かって自分の仕事が進められるべきなのか、その基本理念とあり方を参加者それぞれが自ら問い直し、確認し合う機会として学会の開催意義は大きいと思われます。今後もこの学会の成果を踏まえ、誰もが住みやすい地域社会の実現を目指して老人福祉の分野から貢献していきたいと考えます。